

研究ニーズに関するアンケート調査結果報告

日頃より独立行政法人森林総合研究所の活動にご支援とご理解を賜り誠にありがとうございます。

弊所では、平成21年2月から3月にかけて、弊所が果たすべき役割や行うべき研究等に関して広く各界からのご意見をいただくことを目的に、産業界、学術・教育機関、行政機関及び環境NPO・NGO等を対象に外部アンケート調査を実施致しました。

調査にご協力いただいた皆様方および関係機関等各位には厚く御礼申し上げますと共に調査結果を報告させていただきます。

1. アンケート項目について

質問内容は、「回答者の立場」、「研究内容についての希望」、「研究成果の普及方法についての希望」および「弊所への希望」の4部構成としました（別紙1）。

2. アンケートの依頼先と回答状況

アンケートの依頼先は、個人ではなくホームページ上で住所等の宛先を公開している行政や産業界関係などの計1,284の組織、機関や団体とし、計453の回答をいただきました（回答方法の大部分は返信用封筒、一部がメールやFAX）。その中には、研究成果などの出版物を配布させていただいている機関等も含まれております。

アンケートの回答状況を分野別に図1に示します。特に、産業界及び学術・教育関係から多くの回答をいただきました。

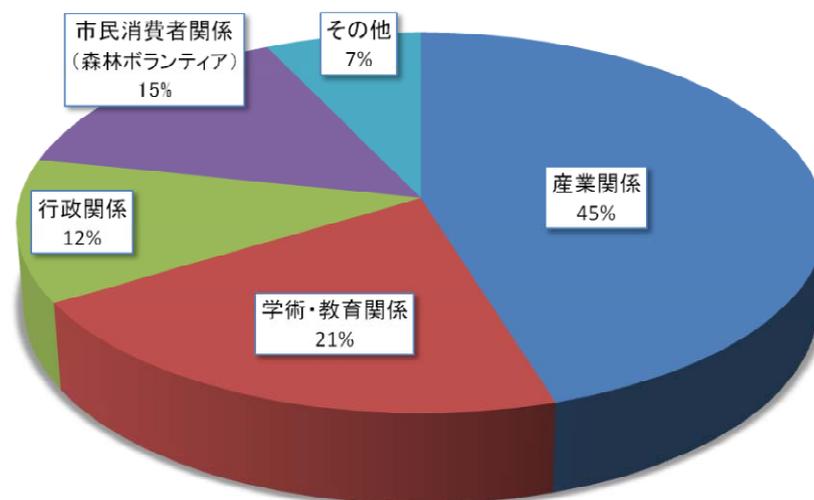


図1 分野別の回答状況

図2～図4に、各分野における機関別の回答状況を示します。

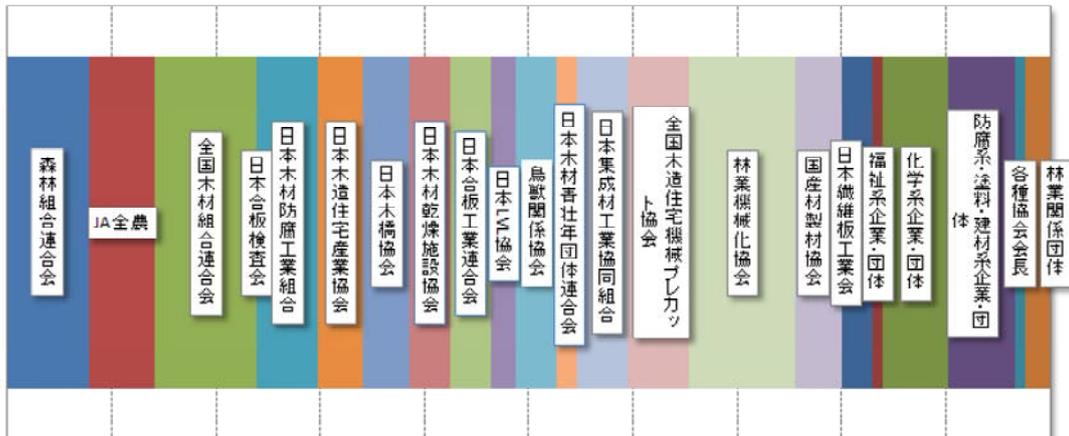


図2 産業分野における回答機関の内訳

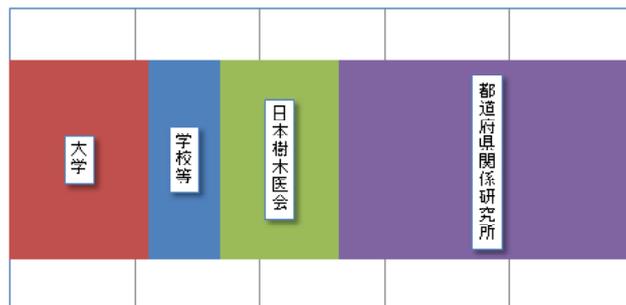


図3 学校・教育関係における回答機関の内訳



図4 行政関係における回答機関の内訳

アンケートの回答率は、全体で35.3%でしたが、組織・機関別では、回答率は都道府県の試験研究機関が約76%と最も高く、次いで都道府県の行政部署でした。この結果は弊所の日常の活動と密接に関係しているのではないかと考えております。

3. 結果の概要（集計結果）

回答いただいた項目のうち、特に、「関心のある研究分野」、「研究成果の発信媒体及び方法として期待するもの」の2項目を取り上げ、機関別に集計を行いました。結果を図5～図7に示します。

まず、「関心のある研究分野」について、全体で最も関心が高かったのは、「林業の活力を高める（F）」であり、全回答数1,462（1機関で3つまで回答可）に対して274、全体の割合としては、18.7%でした。次いで、「木材製品の性能を高める（G）」の228（15.6%）、「森林が地球温暖化を防ぐ（C）」204（14.0%）の順となりました（図5）。

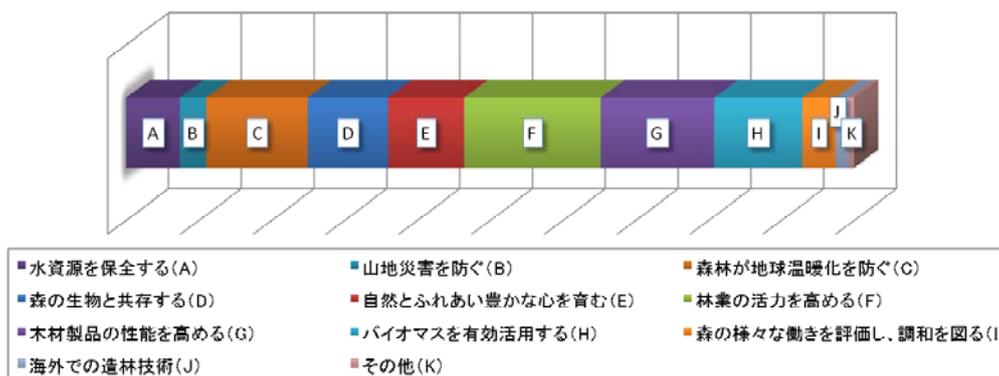


図5 「関心のある研究分野」に対する回答数（全体）

分野別では、産業関係団体および行政機関において「林業の活力を高める（F）」及び「木材製品の性能を高める（G）」について関心が高かったのに対し、市民消費者関係団体では「自然とふれあい豊かな心を育む（E）」が多い傾向がみられました。

また、「森林が地球温暖化を防ぐ（C）」については、回答者の立場に関係なく平均的に関心が高い傾向が認められました（図6）。

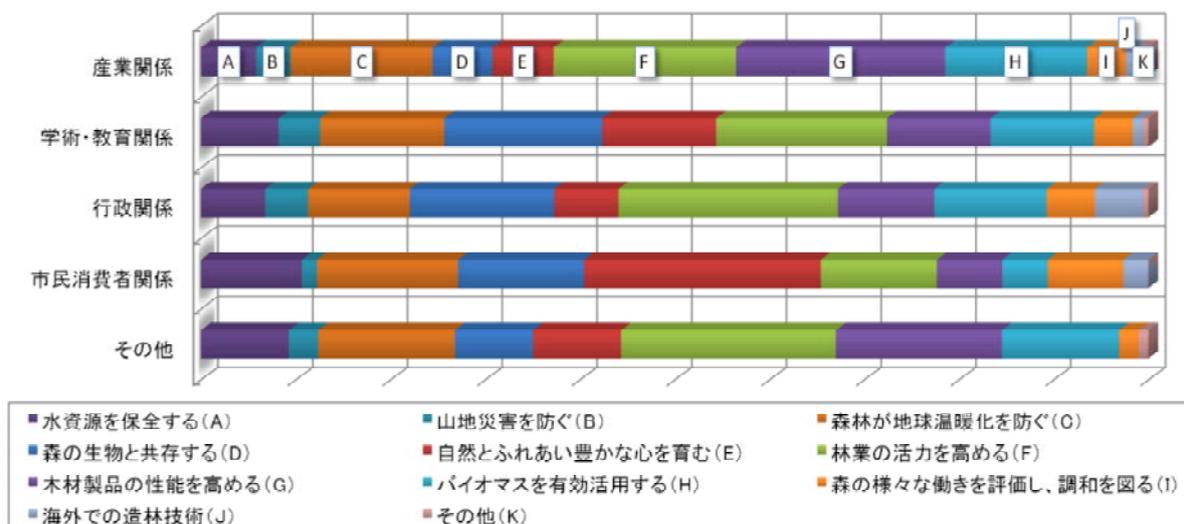


図6 「関心のある研究分野」に対する回答数（分野ごと）

次に、「研究成果の発信媒体及び普及方法として期待するもの」については、全体で最も希望が多かった回答は「ホームページやメールマガジン (b)」で263、次いで「現地での指導や研修講師の派遣 (e)」が201、「パンフレットやマニュアルでの説明(a)」が172、「講演会や成果発表会の開催(c)」が155、「学校や市民団体などへの出前教室(d)」132、「その他 (f)」12の順（複数回答可で、全体の合計は941）でした。

情報の入手には、検索などの面で便利なインターネットを使う方法への希望が多い一方で、現場との直接的なつながりを求める声も強いものと受け止めております。

また、関係機関別でみると、産業関係、学術・教育関係および行政関係では「ホームページやメールマガジン (b)」および「現地での指導や研修講師の派遣 (e)」への期待が高かったのに対し、市民消費者関係などでは、それらに加えて「学校や市民団体などへの出前教室 (d)」への希望も多い傾向がありました（図7）。

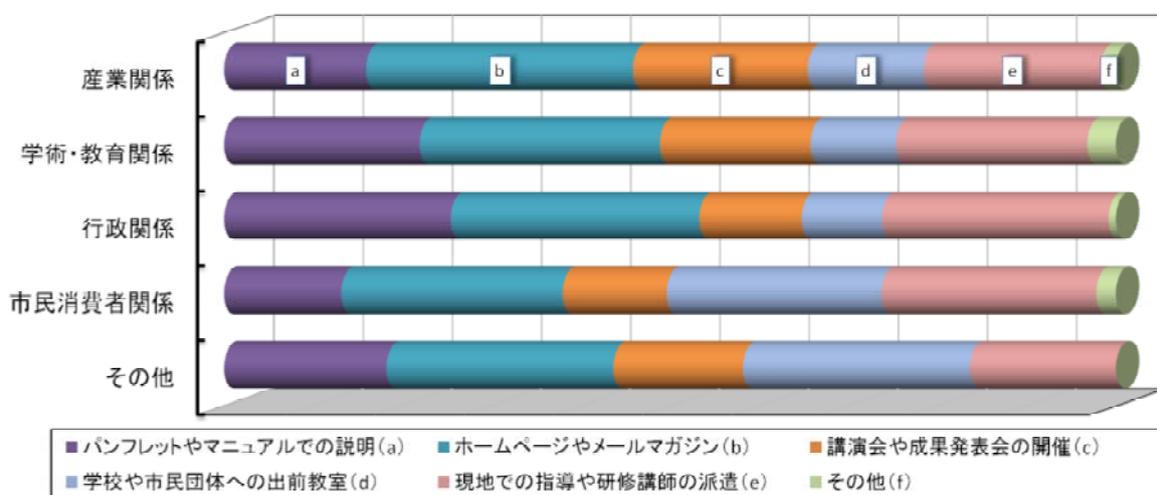


図7 「研究成果の発信媒体及び普及方法として期待するもの」集計結果（関係機関別）

4. 個別のご意見

「森林総研がこれから力を入れて実施すべき研究に対する具体的希望」、「成果の普及方法の具体的な希望」および「森林総研(支所)に期待すること」については、個別に多くの貴重なご意見をいただきました。

それらを委員会で整理した結果につきましては、後段の森林総研アンケート調査（個別意見）をご覧ください。

【集計及び分析】

独立行政法人 森林総合研究所 研究ニーズ調査委員会

【別紙】 研究ニーズについてのアンケート

森林総合研究所(森林総研)と森林・林業・木材産業に関わる研究について、以下(1)～(7)のアンケート項目にお答えください。

(1) このアンケート調査に対して、どう いう立場でお答えいただけますか。 □内に一つだけ○をつけて下さい。	a 産業の立場 (林家、木材加工の工場や自営業など)
	b 学術・教育の立場 (大学、研究開発法人など)
	c 行政の立場 (官公庁などの行政機関)
	d 市民・消費者の立場 (環境NPOやNGOなど)
(2) 森林総研では、A から M までの目標を立てて研究を行っています。 あなたが現在、最も関心を持っている研究分野を、A～M の中から3つまで選んで、□内に○を付けてください。 詳しい研究内容については、森林総研のホームページ (http://ss.ffpri.affrc.go.jp/index-j.html) の 「2050年の森」研究開発ロードマップをご覧ください。	
A 水資源を保全する	a1 森林水循環の長期モニタリング観測
	a2 温暖化や森林施業が森林の水循環に与える影響
	a3 良質な水資源の保全と安定供給
B 山地災害を防ぐ	b1 気候変動による山地災害リスク変化の予測
	b2 災害を未然に防止するための観測・監視技術
	b3 防災・減災のためのハザードマップ作成技術の向上
C 森林が地球温暖化を防ぐ	c1 地球温暖化防止への森林の役割
	c2 炭素をはじめとした地球規模の物質循環
	c3 熱帯林の保全及び修復の技術
	c4 樹木などの植物の分布の変化
D 森の生物と共存する	d1 鳥や獣による森林や人的被害の防止
	d2 樹木の病虫害の防止
	d3 生物の多様性を保全する技術
	d4 絶滅が危ぶまれる希少な生物の保全
	d5 海外から入る外来生物の管理
E 自然とふれあい豊かな心を育む	e1 森林のレクリエーション機能の効果
	e2 森林が持つセラピー機能の効果
	e3 里山林の再生と管理
	e4 森林や木にかかわる環境教育
F 林業の活力を高める	f1 人工林を育成し、良質の木材を生産する技術
	f2 樹木伐採・運搬の機械開発や林道の整備
	f3 きのことなどの特用林産物の生産技術
	f4 林業経営を活性化するための技術
	f5 天然林を持続的に管理する技術
G 木材製品の性能を高める	g1 国産材の有効利用と新用途開発
	g2 安全で快適な住宅の設計開発
	g3 集成材や面材料などの木質材料の開発
	g4 建築廃材などのリサイクルと再利用
H バイオマスを有効活用する	h1 木質バイオマス(木質資源)の有効利用と用途開発
	h2 木製品製造過程などにおける環境への影響評価(LCA)
	h3 スギ花粉症の改善や材質の良い樹木を作る遺伝子技術
J 森の様々な働きを評価し、調和 を図る	j1 CO2吸収や水源涵養などの森林の多面的な機能の評価
	j2 森林資源情報の整備と利用
K 海外での造林技術	k1 砂漠化しつつある地域などでの海外造林技術
M その他	m1 その他

(3) 森林総研がこれから力を入れて実施すべき研究は、どのような分野のものであると思いますか。
(2)の A~M または a1~m1 の中から3つ選んで番号を書いてください。
また、できれば研究に対する具体的な希望などを書いてください。

(番号)	＜研究に対する具体的な希望など＞

(4) 森林総研の研究成果の発信媒体、普及方法として期待するものをいくつでも結構ですので、
選んで□の中に○をつけてください。また、できれば具体的な希望などを書いてください。

		＜具体的な希望＞
a	パンフレットやマニュアルでの説明	
b	ホームページやメールマガジン	
c	講演会や成果発表会の開催	
d	学校や市民団体などへの出前教室	
e	現地での指導や研修講師の派遣	
f	その他	

(5) 森林総研(支所)に期待することを自由にご記入ください。

--

(6) あなたの所属する組織名と回答された日付をお書きください。

(組織名:)
(回答年月日: 平成21年 月 日)

(7) よろしければ、あなたの役職名とご氏名をお書きください。

(役職名)
(ご氏名)

ご協力ありがとうございました。